

3 オムニバス「森の憧憬」  
(kondalilla(Stephan Leek))  
(little tree(Eric Whitacre))

曲について

Kondalilla(Stephan Leek)

Kondalilla is the name of a waterfall in a small remaining pocket of rainforest in South East Queensland, Australia. In the indigenous Dreamtime Stories of the area, Kondalilla is the spirit of the waterfall and Ouyen is the spirit of the still water. This work is most effectively performed if the Sopranos are distributed throughout the audience. Durations are at the discretion of the conductor, but generally they should be very long and broad. An average performance time of this work would be between 6 and 7 minutes.

とのことである。参考にしてほしい。曲をきいたほうが早いと思われる。色々な擬音や声で景色をひたすらに表現している。特殊な曲だがここまで自然にとけこんだ曲はないであろう。二度本番を聞く機会に恵まれたが本当に不思議な気分になり感動した。聞き手、歌い手共に異空間を構成する喜びを知ってほしいと思う。

Little tree(Eric Whitacre)

*little tree*

*little silent Christmas tree*

*you are so little*

*you are more like a flower*

*who found you in the green forest*

*and were you very sorry to come away?*

*see i will comfort you*

*because you smell so sweetly*

*i will kiss your cool bark*

*and hug you safe and right*

*just as your mother would,  
only don't be afraid*

*look the spangles  
that sleep all the year in a dark box  
dreaming of being taken out and allowed to shine,  
the balls the chains red and gold the fluffy threads,*

*put up your little arms  
and i'll give them all to you to hold  
every finger shall have its ring  
and there won't be a single place dark or unhappy*

*then when you're quite dressed  
you'll stand in the window for everyone to see  
and how they'll stare!  
oh but you'll be very proud*

*and my little sister and I will take hands  
and looking up at our beautiful tree  
we'll dance and sing  
"Noel Noel"*

この曲はクリスマスに Whitacre が有名な指揮者(Vance George)に委嘱されて作曲した曲とのことである。旋律線の自然な、美しい曲というイメージがあるが、意外にも日本ではあまり演奏されることのない Whitacre 曲のうちの一つである。詩は E.E. Cummings によって書かれている。この人は I thank you god,, 等他の Whitacre 曲の題材にもなっているが、愛と自然をテーマにした詩を書く詩人である。

### このオムニバスについて

この二曲を選んだのはこの二曲に会場を支配する力が十分にあると考えたからである。かなり迫力のある曲が二曲決まっている今、視点、耳の位置を変えた

新たな感覚でお客さんに聞いていただくことによって飽きのない演奏会が実現できるのではないかと考えている。今まで日本の合唱団があまりやってこなかった、体感する合唱曲、とりわけステージと別々ではなく、自分もその演奏空間に参画しているという実感を持ってもらうのが本ステージ案の選曲意図である。本当にどうでもいいが、本オムニバスの名前、「森の憧憬」は「森への憧憬」ではないかという貴重なご意見をいただいたのだが、憧憬という言葉には自動詞も他動詞も存在するため、「風の憧憬」という既存の2次元作品にあやかりこの命名で確定するに至った。（偶然見つけただけで決してオタクなわけではない。。）

## 譜面について

### Kondalilla

この曲は譜面を見ていただければわかると思われるように長さの割に、譜面がとても簡素でありかつとても短い。これは何を意味するかと言えば、簡単なだけでなく、歌い手に表現、空間構成部分についてかなり任せていることを意味する。これはみんなでどのような演出にするか考えていきたい。個々にキャラを持たせるとすると、ある種の演劇感があるという点でも模索の可能性が大きい作品の一つである。

その反面、懸念点も数点あげられる。

まずその一つに大人数でこの曲をやる難しさである。この曲をやる団体は色々な動画を見るに大抵40人前後であることが多い。この団の人数は100人前後である。新宿文化の箱にたいして空間構成をころみるのならばこのくらい的人数でやるのがちょうどいいのではないかと思ったが、パート配分が難しい。たとえば最初の小節について言えば、女声はおそらく3つにまとめて分けることになり、耳につく（というかあまりいるとうるさい）上2パートは7人ずつ程度の半 soli 状態で担当することになる。男声についてはそこまで問題は生じないと思われるが、客席のなかで団員一人一人が独立してこの曲を歌い上げるためには技術以前にある一定の自信が必要になるのではないと思われる。

という疑問をもったので以前この曲を演奏なさっていた harmonia ensemble の指揮者を務める福永先生にこの曲をどう練習したか、大人数の大学合唱団でや

ることについて意見をいただいたのでその要旨を参考までに貼っておく。（文章の内容は団外秘とします。むやみに口外するのはさけてください。）

#### \* 練習について

この曲は譜読み自体は難しくないのですが、女性是一人一人の歌唱力が問われるため、その意味での難しさがある。

練習の方法としては、パートごとに分かれ、ソプラノはソプラノの音型、アルトはアルトの音型を練習し、一人一人歌いながら確認する。発声的に、一人で存在感のある声が出せるようになるまで練習することが大事。というのも、実際はホールの中で一人一人がばらけてお客様の前で歌うので、他の人に頼って歌う歌い方だと、緊張して上手く歌えなかったりする。一人一人がある程度きちんと音型を歌えるようになったら、任意で順番を決めて、任意のタイミングでずらしながら演奏する。最初に出るのは、パートリーダークラスの、しっかり歌える人がいいと思います。実際は、出てくる音型を順番に歌う必要はなく、ある音型だけをひたすら繰り返す人、などがいても構いません。その意味では、ひとりで歌うことが苦手な人がいても大丈夫だと思います。男性は2パートでハモるので、2パート合同で練習し、五度を決める練習、英語のディクシジョンの練習、歌の部分の音楽作り、最後の森林の表現の練習、ホーミーの練習、などを行います。ホーミーは何人か出来れば大丈夫です。ユーチューブなどにホーミーのやり方がいくつか載っているので、それを参考にしながら器用な人はすぐ出来るようになります。最後の森林の部分は、なんでもありの練習しがいのある楽しい部分です。鳥の声や風のせせらぎ、水しぶき、動物のうなりなど、想像しながら作ってみてください（あくまで pppp なので、人数が多いと大きくなり過ぎないようにする必要があるが）各パートでの練習がある程度出来たら、合同で練習します！各パートでの練習がしっかり出来ていれば、すぐに、素晴らしい音空間が現出すると思います。あとは色々出のタイミングを変えたりしながら、自分たちだけの Kondalilla を作っていくだけです。譜面は一見難しそうですが、やってみると実は思ったほど難しくなく、練習も他の曲に比べてそんなに時間を必要とせず、しかし演奏効果はとても大きい曲なので、是非柏葉会さんで取り組んでいただけたら嬉しいです！

女声の歌唱力については、もちろん、美しくソロを歌える人がいればいるほどいいというのは確かですが、必ずしもみんながみんな、あの印象的なフレーズを歌える必要はないので（たとえば得意なフレーズだけを繰り返したりする人がいてもよい）、ある程度人数がいる場合は、そこまで歌唱力に関しては心配されなくてもよいかなと思います！

#### \* 大人数の合唱団でこの曲をやることについて

ハルモニアは室内合唱団なので、この曲をやるときも20人弱での演奏ですが、もちろん80-90人規模でも演奏することは可能ですし、少人数でやるのとは全く違った音空間が現出するのではないかなと思います！

この通りやるわけではないが、ビジョンとしてはやり方が見えていると思う。とはいいつつも、自分たちでオリジナルなものが作ればこの曲は多いに映えるs曲としてちょうどいいものだと判断する。

Little tree

ピアノが伴奏ではなく影響、刺激を受け合うものであることに注意したい。ボカリーズ、擬音、考察要素はたくさんあるように思われる。若干構成的にも映画、TV音楽感があり、自然とお客さんに浸透してくるように、なるべくしれっと色々なしかけをしていければと思う。また、Kondalillaとは夏と冬の対比感がある。Kondalillaのオーストラリアのイメージから、空気のつめたいクリスマスに雰囲気をもっていければ魅力あるオムニバスになるのではないかなと思う。